

## 研究室紹介

### 飛鳥藤原宮跡発掘調査部 考古第一調査室

飛鳥藤原宮跡発掘調査部には考古第一調査室、考古第二調査室、遺構調査室、史料調査室が置かれています。考古第一調査室は土器等の遺物の調査研究を担当し、考古第二調査室は瓦・金属器・木器等の遺物を扱うと定められています。しかし当調査部は平城宮跡発掘調査部より組織が小さく、発掘調査で出土する多様で膨大な量の遺物の整理には、組織図どおりの分業では不適合な部分があります。そのため、遺物については瓦・土器・木器（瓦と土器以外を扱う）の3つの整理班を編成して作業を進めています。考古第一調査室の対象とされている土器類は、土器整理班を中心に整理・分析・研究をおこなっています。

日常的な作業は、現場から運ばれてくる土器の水洗、分類、破片の接合と復原、実測、データ処理などの基本作業が中心です。現在は主に吉備池廃寺と飛鳥池遺跡の報告書刊行にむけて、整理作業や実測図作成などをおこなっており、いそがしい毎日が続いています。

飛鳥藤原地域は、7世紀の約1世紀のあいだ日本の都でした。この地域から出土する様々な遺物は、律令国家の成立過程を明らかにしていく重要な資料です。土器もそのうちの主要なものの一つで、どんな遺跡でも必ず出てくる普遍的な遺物です。土師器・須恵器を中心として、7世紀にこの地域で使われた土器の様相を明らかにしていくことが研究課題です。土器の編年や作られた産地の問題など、課題はたくさんあります。また宮都で使われていた土器という性格から、全国各地の同時代の土器研究への関わりは大きいと考えられます。7世紀の土器様相の基本的な変遷についてはこれまでも『学報』などで公表してきましたが、今後さらに詳細な研究成果をあげていくよう努力しているところです。

（飛鳥藤原宮跡発掘調査部 安田龍太郎）